マンスリー・ミュージック・サロン
Monthly Music Salon vol.103

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局

Schedule
（首都圏公演）

DAZZLE ©Muga Miyahara

Ballet バレエ
■東京バレエ団
「ロミオとジュリエット」
2月6～9日 東京文化会館
問NBSチケットセンター 03-3791-8888

■アメリカン・バレエ・シアター
「くるみ割り人形」 2月20～22日 オーチャードホール
「オールスターガラ」 2月25日、26日 オーチャードホール
「マノン」 2月27日、28日、3月1日 東京文化会館
問ジャパンアーツぴあ 03-5774-3040

Dance ダンス
■DAZZLE
「二重ノ裁ク者」 2月14～16日 東京芸術劇場・プレイハウス
問チケットスペース 03-3234-9999

Classic クラシック
■10代のためのプレミアムコンサート 完売
アラン・ギルバート＆ニューヨーク・フィルハーモニック
2月11日 サントリーホール
問Sony Music Foundation 03-5227-5233

■ニューヨーク・フィルハーモニック（アラン・ギルバート指揮）
2月12日、13日 サントリーホール
2月15日 横浜みなとみらいホール
問カジモト・イープラス 0570-06-9960

Jazz ジャズ
■Yuji Ohno & Lupintic Five
2月13日 ビルボードライブ東京
問03-3405-1133

■ミューザジャズナイト（渡辺香津美ほか）
2月14日 ミューザ川崎
問044-520-0100

Editor's Voice

小曽根真とニューヨーク・フィルハーモニックの共演が近づいている。指揮はアラン・ギルバートで、小曽根はジョージ・ガーシュウィンの「ラプソディー・イン・ブルー」を演奏する。この曲にニューヨーク・フィルほどふさわしい楽団はない。ガーシュウィン生地のオーケストラであり、レナード・バーンスタイン（指揮とピアノ）などが名演を残してきた。クラシック曲は原典を尊重して演奏するというジャズピアニスト小曽根が、どんな演奏を聴かせてくれるのかが楽しみだ。公演は2月10日大阪・ザ・シンフォニーホール、2月15日横浜みなとみらいホール。奇しくも今年はガーシュウィン自身のピアノによる初演（1924年2月12日ニューヨーク）から90周年にあたる。 （小針）

2014年ジャズ界展望

渡辺香津美

日本ジャズ界の課題

本欄の執筆を通じて、昨年2人の偉大な邦人ジャズメンと話し合うことができた。渡辺香津美と小曽根真。日本を留守にすることも多い2人だが、彼らの目に、現在の日本のジャズ界はどう映っているのだろう。

共通する意見は「型」にはまるなということだ。日本人ミュージシャンの実力は、世界的にも認められており、海外進出する若者も多い。国内の一流音大にも多くジャズ科が設けられている。音楽の需要は増える一方だから、一定以上の技術を持てば仕事にはあぶれない。そんな職場で求められるのは「型」である。放送や映画、CM音楽等々にはすべて「型」がある。制約のなかで、指揮者の求めるサウンドを提供しなければならない。ジャズを志す以上、それに堕するなと両氏は言う。

小曽根真 ©Kishin_Shinoyama

昨年のジャズ界は

規格化されたジャズは、もはやジャズとはいえないが、実はそこに落とし穴があると両氏は見ている。2人が抜きんでた存在たり得たのも、先人たちの残したジャズの「型」に敬意を払いながらも、常にそこを突破しようとする勇気と覇気があったからだろう。昨年の活躍をみれば、小曽根はピアノソロからビッグバンド、クラシック管弦楽との共演まで多彩な活動を繰り広げた。渡辺は還暦を迎えながらも、その音楽はますます濃厚なものに進化している。そのエネルギッシュな活力は、ジャズの自在な表現を通して得られる自己実現のたまもの。若手では上原ひろみ、寺井尚子、ベテランでは渡辺貞夫、山下洋輔もこうしたパワーを維持し依然トップ集団を走っている。「型」にはまらない自己表現を持った者の強みである。

2014年への期待

昨年大活躍し、今年さらに期待されるのがピアノ、作編曲の狭間美帆だと思う。今後はジャズファンの注目が大編成バンドに向くと推測される。日本のジャズ界は長くコンボ偏重の時代が続いた。トリオや多くて2管どまり。そこには独奏の余地は多くとも、ハーモニーの魅力が希薄である。エリントンやギル・エヴァンスを持ち出すまでもなく、重厚なハーモニーもジャズの醍醐味の一つ。山下洋輔＋クラシック管弦楽に人々が集まるのも、アドリブと合奏の双方の魅力を味わいたいからだ。今年はこうしたビッグバンドが活発化すると思われる。若い狭間の斬新なハーモニーセンスに一層の期待をかけたい。

狭間美帆 ©Miho Aikawa

ジャズ評論家／小針俊郎

Check in CD

韓国のベテラン、ウンサンの名唱

アイ・ラヴ・ユー
ウンサン(vo)
鈴木央紹(sax)
若井優也(pf)ほか
■PCCY-30220
■ポニーキャニオン
■3,000円(税込み)

日韓で活躍するウンサンの2年ぶりのCD。彼女は聴き手の心をつかむのが実に巧みだ。呼吸がいい、気合がいい。これは彼女が17歳から2年間、自ら志して僧籍にあったことと関連がある。只管打坐（しかんたざ）、ひたすら座禅をするうち、突然歌に進むことを悟ったという。僧名雄山が芸名ウンサンとなった。スタンダード、ブルースからクラシック歌曲まで。韓国を代表する名手の歌に酔いたい。 （小針）

ゴージャスなアレンジにのせて歌われる恋歌集

レッド ～ルージュのため息
ダイアナ・パントン(vo)
ドン・トンプソン(pf,vib)
フィル・ドワイヤーズ(sax)ほか
■MZCF-1281
■ミューザック
■2,520円(税込み)

可憐（かれん）さと妖艶さを兼ね備えたカナダ人シンガー、ダイアナ・パントンの最新作。全13曲、すべて恋歌で、過去5作にくらべて彼女の特徴がもっとも顕著にあらわれている。一見技巧的な歌には聞こえないが、細部まで行き届くコントロールが絶妙。ため息さえでるほどの仕上がりだ。歌詞の解釈も正統なもので、年季の入ったボーカルファンも納得の出来栄え。伴奏も美しい。 （小針）

Jazzの基礎知識

ジャズとは何でしょう？②

What is This Thing Called Jazz?

バイオリン属（ビオラ、チェロ等）の多いクラシックの管弦楽にくらべると、ジャズバンドの楽器編成には弦楽器が少ないという特徴があります。これには歴史的な理由があります。ジャズが発祥した19世紀末、正規の音楽教育を受けられた黒人は少数派でした。多くは安価な管楽器、打楽器を手にして自己流で奏法を会得していったのです。南北戦争が終わり、軍楽隊払い下げの楽器がたくさん出回ったという背景もあります。軍楽隊といえば行進曲ですから、吹奏楽のなかのバイオリンと位置づけられるクラリネットを主として、トランペット、トロンボーンなどで構成されています。初期のジャズメンはこれらの楽器を、自分たちの音楽に効果的に取り入れていきました。当時の典型的な編成はクラリネット、トランペット、トロンボーン、通奏低音のためのチューバ、和音楽器のバンジョーそしてドラムスの6人編成です。にぎやかなディキシーランドジャズを思い描いてください。彼らはヨーロッパ起源であるこれらの楽器の性能を黒人独特の音感に基づいて拡張していきます。クラリネットでグリッサンドを作る。トランペットのバルブを半押しして微分音を作る等々。こうした奏法や楽器編成は、現在のジャズにも基本的に受け継がれています。18世紀に形を整えたクラシック管弦楽が、拡大されながら現在までその基本編成が維持されてきた歴史とよく似ています。

（小針）